

大阪府重症心身障がい児者実態把握調査 調査結果 報告書

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	2
i) 基本集計	2
1 障がい者のお住まいの市町村.....	2
2 主たる介護者の続柄	2
3 障がい者と主たる介護者以外に同居している人数.....	3
4 障がい者の年齢区分	4
5 身体障がい者手帳の総合等級.....	4
6 障がい者の状態、特性.....	5
7 医療的ケアの内容	9
7-2 医療的ケアの内容 児のみ.....	10
7-3 医療的ケアの内容 者のみ.....	11
8 主たる介護者が病気・外出等により医療的ケアを実施できない場合に、 代わりに医療的ケアを依頼できる人の有無.....	12
9 障がい者が普段の生活で日中過ごしている場所	13
10 介護等の状況について	14
11 障がい者が利用中のサービス	18
11-2 サービスの利用を断られた理由	19
12 利用できなかった園や学校.....	20
12-2 断られた理由	21
13 今後充実を希望するサービスや支援策.....	22
13-2 最も充実を望む内容	23
14 医療型短期入所の利用希望日数と実利用日数.....	24
ii) 動ける医療的ケア児者分析	25
動ける医療的ケア児者について	25
1-1 今後充実を希望するサービスや支援策 医療的ケア有群のみ.....	25
1-2 今後充実を希望するサービスや支援策	26
2-1 介護等の状況について 医療的ケア有群のみ	30
2-2 介護等の状況について	36
3 障がい者の状態、特性 医療的ケア有群のみ	42
iii) 過去実施調査との比較.....	46
①令和3年度実施調査との比較	46
②平成25年度実施調査との比較.....	52
1 主たる介護者の続柄	52

2	主たる介護者が病気・外出等により医療的ケアを実施できない場合に、 代わりに医療的ケアを依頼できる人の有無.....	52
3	介護等の状況について.....	53
4	今後充実を希望するサービスや支援策.....	54

I 調査の概要

1 調査の目的

重症心身障がい児者やその介護者の現状を把握するとともに、重症心身障がい児者地域ケアシステムとして重点的な取組みを開始して10年が経過するこの時機において、10年前と比較して重症心身障がい児者の地域生活にどのような変化があったかなどを把握し、これまでの施策の効果検証を行い今後の取組みの検討材料とする。

2 調査対象者

大阪府重度障がい者在宅介護支援給付金の受給者

※在宅で身体障がい者手当1、2級と療育手帳Aを併せ持つ重度障がい者（大阪府において定義するところの重症心身障がい児者）を介護する方

3 調査方法

手当の受給者に対して実施する現況調査票に同封する形式により配付

4 回収結果

大阪府重度障がい者在宅介護支援給付金の受給者 1,858/3,209名

5 備考

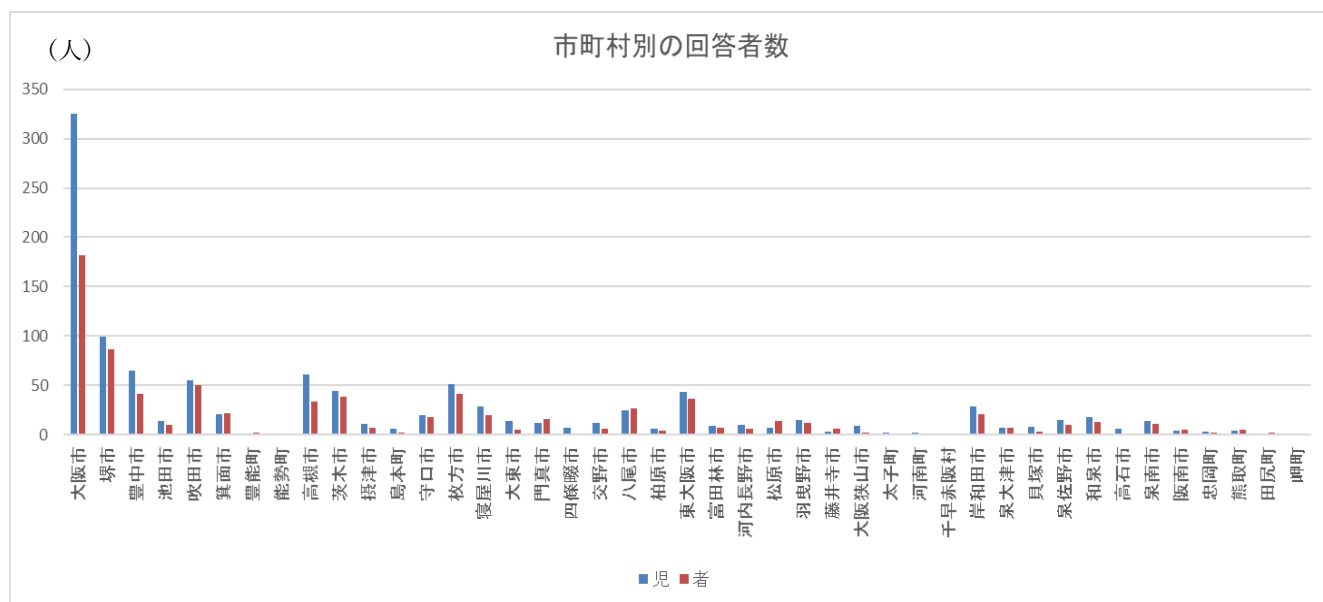
集計結果は小数第3位を四捨五入しており、合計が100%とならない場合がある。

Ⅱ 調査結果

i) 基本集計

1 障がい者のお住まいの市町村

児については多い順に大阪市（325人）、堺市（99人）、豊中市（65人）、者については大阪市（176人）、堺市（86人）、吹田市（50人）であり、概ね自治体人口に比した割合となっていた。



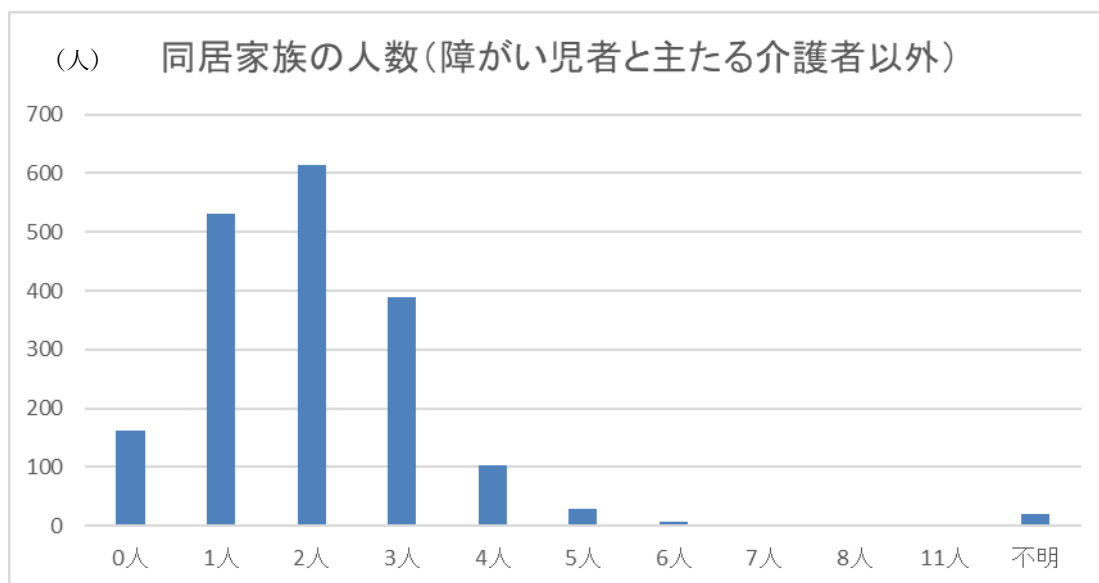
2 主たる介護者の続柄

主たる介護者は、いずれの年齢区分・群においても「母」が最も多く全体の約8割を占めていた。

	医ケア	母		父		きょうだい		祖父母		その他		無回答		計
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
児	有	550	86.34	77	12.09	0	0.00	2	0.31	7	1.10	1	0.16	637
	無	380	85.01	63	14.09	0	0.00	0	0.00	4	0.89	0	0.00	447
者	有	218	85.49	29	11.37	3	1.18	0	0.00	5	1.96	0	0.00	255
	無	395	78.06	75	14.82	21	4.15	1	0.20	10	1.98	4	0.79	506

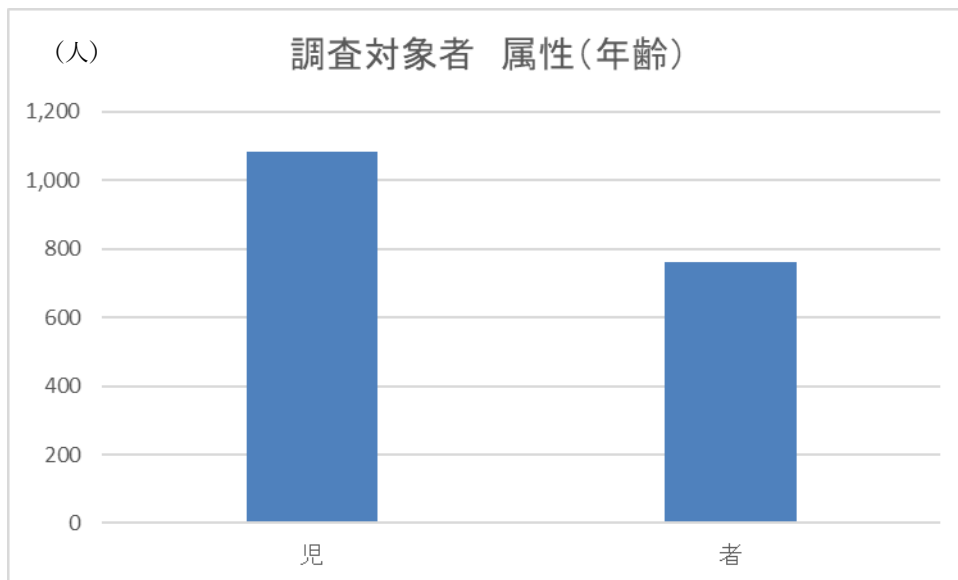
3 障がい者と主たる介護者以外に同居している人数

同居家族の数は障がい児者と介護者以外に2人（613世帯）、次いで1人（532世帯）の世帯が多くを占めていた。



4 障がい者の年齢区分（令和6年4月1日時点）

者に比して児の人数の方が多い。これは、本給付金は者のみが対象となる特別障がい者手当との併給ができないためと考えられる。



児	1,084
者	761
不明	13
計	1,858

5 身体障がい者手帳の総合等級

1級保持者が全体の約3分の2を占めていた。

等級	人数	割合
1級	1,279	68.84%
2級	566	30.46%
不明	13	0.70%
合計	1,858	

6 障がい者の状態、特性

(1) 運動発達

医療的ケアが必要な児においては、最も多くを占めるのが寝たきりであった（55.26%）。
医療的ケアが必要な者においても、最も多くを占めるのが寝たきりであった（42.35%）。

		寝たきり	座れる	歩行障がい	歩ける	走れる	無回答	計
児	医ケア有	352	100	89	66	26	4	637
	医ケア無	74	99	99	104	65	6	447
者	医ケア有	108	31	44	52	19	1	255
	医ケア無	18	68	122	214	73	11	506
							不明	13
							計	1,858

(2) 食事（経管栄養を含む）

特に低年齢層において介助が必要な児については、医療的ケア有群において約8割（80.53%）が全介助、医療的ケア無群であっても約半数（48.10%）が全介助となっていた。
一方、者においては、医療的ケア有群において過半数（57.25%）が全介助を必要としていた。

		全介助	半介助	自立	無回答	計
児	医ケア有	513	100	22	2	637
	医ケア無	215	167	60	5	447
者	医ケア有	146	54	51	4	255
	医ケア無	77	214	201	14	506
					不明	13
					計	1,858

（３）排泄（おむつ、浣腸の使用を含む）

医療的ケア有群の児においては約９割（89.01％）が全介助、医療的ケア無群であっても過半数（65.55％）が全介助であった。者においては、医療的ケア有群においてのみ過半数（61.96％）が全介助であった。

		全介助	半介助	自立	無回答	計
児	医ケア有	567	50	12	8	637
	医ケア無	293	116	31	7	447
者	医ケア有	158	46	44	7	255
	医ケア無	126	158	201	21	506
					不明	13
					計	1,858

（４）入浴

医療的ケア有群の児においては約９割（92.15％）、医療的ケア無群の児においては７割超（74.27％）が全介助であった。者においては、医療的ケア有群において過半数（68.63％）が全介助を要していた。

		全介助	半介助	自立	無回答	計
児	医ケア有	587	46	3	1	637
	医ケア無	332	95	18	2	447
者	医ケア有	175	48	29	3	255
	医ケア無	180	203	115	8	506
					不明	13
					計	1,858

(5) 口腔清掃

医療的ケア有群の児において約9割（90.58％）、医療的ケア無群の児において過半数（76.06％）が全介助を必要としていた。また医療的ケア有群の者においても過半数（65.49％）が全介助であった。

		全介助	半介助	自立	無回答	計
児	医ケア有	577	51	8	1	637
	医ケア無	340	88	16	3	447
者	医ケア有	167	46	39	3	255
	医ケア無	163	173	159	11	506
					不明	13
					計	1,858

(6) 言語理解

医療的ケアが必要な児においては、最も多くを占めるのが言語理解不可であった（57.14％）。医療的ケアが必要な者においても最も多くを占めるのが言語理解不可であった（40.39％）。

		言語理解 不可	簡単な 言語理解可	簡単な色・数 の理解可	日常の言語 理解可	無回答	計
児	医ケア有	364	178	31	57	7	637
	医ケア無	151	173	32	88	3	447
者	医ケア有	103	70	21	57	4	255
	医ケア無	63	186	45	201	11	506
						不明	13
						計	1,858

(7) 意思表出

医療的ケア有群の児においては、表情や目の動きからの意思確認が多いものの、者においては言語表出による意思表示が認められる割合が増加している。一方で医療的ケア無群においては、児・者ともに声や身ぶり、サイン等による表出から言語での表出までが可能であるものが過半数を占めていた。

		意思表示が 確認できない	表情、 目の動き	声や身ぶ り、サイン	言語で の表出	その他	無回答	計
児	医ケア有	143	253	143	88	8	2	637
	医ケア無	49	91	161	135	6	5	447
者	医ケア有	56	66	38	81	8	6	255
	医ケア無	40	29	113	271	20	33	506
							不明	13
							計	1,858

(8) その他特性（複数回答可）

医療的ケア有群においては、児・者ともに特性として最も多くを占めるのは発作であった。また、医療的ケア無群においては、児において医療的ケア有群と比して、異食行動やものを壊す、パニックや不安定な行動等の項目が該当する傾向がみられた。

		発作	医療的ケア 用品抜去	異食 行動	自傷・ 他傷	ものを 壊す	パニックや 不安定な 行動	感覚 過敏	該当なし ・無回答	総数
児	医ケア有	253	98	20	82	24	67	123	194	637
	医ケア無	89	－	39	81	49	79	121	174	447
者	医ケア有	88	31	6	31	11	48	49	96	255
	医ケア無	85	－	9	84	31	133	95	226	506

7 医療的ケアの内容

必要な医療的ケアは、「排便管理（浣腸）」485 人（54.37%）、「経管栄養（経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸管、腸ろう）」441 人（49.44%）、「吸引（鼻腔吸引）」372 人（41.70%）、「吸引（口腔吸引）」326 人（36.55%）の順で多くなっていた。

医療的ケアの内容		人数	割合
(1) 人工呼吸器	ほぼ常時使用	84	9.42
	主に夜間のみ使用	85	9.53
	体調不良時ときどき使用	33	3.70
(1) 排痰補助装置（カフアシスト、コンフォートカフなど）の使用		84	9.42
(2) 気管切開の管理		188	21.08
(3) 鼻咽頭エアウェイの管理		12	1.35
(4) 酸素療法		226	25.34
(5) 吸引	口腔吸引	326	36.55
	鼻腔吸引	372	41.70
	気管内吸引	116	13.00
	気管カニューレ内吸引	182	20.40
(6) ネブライザーの管理		212	23.77
(7) 経管栄養	経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、 経胃ろう腸管、腸ろう	441	49.44
	食道ろう	0	0.00
	持続経管注入ポンプ使用	30	3.36
(8) 中心静脈カテーテルの管理 (中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬など)		6	0.67
(9) 自己注射等	皮下注射 (インスリン、成長ホルモン治療など)	35	3.92
	持続皮下注射ポンプ使用	0	0.00
	静脈注射（血友病補充療法など）	1	0.11
(10) 血糖測定（持続血糖測定器による血糖測定を含む）		14	1.57
(11) 継続的な透析（血液透析、腹膜透析を含む）		16	1.79
(12) 導尿	間欠的導尿	53	5.94
	持続的導尿（尿道留置カテーテル）	17	1.91
	尿路ストーマ（膀胱ろう、腎ろう）	6	0.67
(13) 排便管理	消化管ストーマ	12	1.35
	摘便、洗腸	83	9.30
	浣腸	485	54.37
医療的ケア有総数		892	

7-2 医療的ケアの内容 児のみ

必要な医療的ケアは、「排便管理（浣腸）」375 人（58.87%）、「経管栄養（経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸管、腸ろう）」353 人（55.42%）、「吸引（鼻腔吸引）」301 人（47.25%）、「吸引（口腔吸引）」250 人（39.25%）の順で多くなっていた。

医療的ケアの内容		人数	割合
(1) 人工呼吸器	ほぼ常時使用	63	9.90
	主に夜間のみ使用	67	10.52
	体調不良時ときどき使用	27	4.24
(1) 排痰補助装置（カフアシスト、コンフォートカフなど）の使用		65	10.20
(2) 気管切開の管理		141	22.14
(3) 鼻咽頭エアウェイの管理		7	1.10
(4) 酸素療法		177	27.79
(5) 吸引	口腔吸引	250	39.25
	鼻腔吸引	301	47.25
	気管内吸引	81	12.72
	気管カニューレ内吸引	142	22.29
(6) ネブライザーの管理		166	26.06
(7) 経管栄養	経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、 経胃ろう腸管、腸ろう	353	55.42
	食道ろう	0	0.00
	持続経管注入ポンプ使用	24	3.77
(8) 中心静脈カテーテルの管理 (中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬など)		5	0.78
(9) 自己注射等	皮下注射 (インスリン、成長ホルモン治療など)	24	3.77
	持続皮下注射ポンプ使用	0	0.00
	静脈注射（血友病補充療法など）	0	0.00
(10) 血糖測定（持続血糖測定器による血糖測定を含む）		6	0.94
(11) 継続的な透析（血液透析、腹膜透析を含む）		2	0.31
(12) 導尿	間欠的導尿	37	5.81
	持続的導尿（尿道留置カテーテル）	6	0.94
	尿路ストーマ（膀胱ろう、腎ろう）	4	0.63
(13) 排便管理	消化管ストーマ	5	0.78
	摘便、洗腸	51	8.01
	浣腸	375	58.87
医療的ケア有総数		637	

7-3 医療的ケアの内容 者のみ

必要な医療的ケアは、「排便管理（浣腸）」110人（43.14%）、「経管栄養（経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸管、腸ろう）」88人（34.51%）、「吸引（口腔吸引）」76人（29.90%）、「吸引（鼻腔吸引）」71人（27.84%）の順で多くなっていた。

医療的ケアの内容		人数	割合
(1) 人工呼吸器	ほぼ常時使用	21	8.24
	主に夜間のみ使用	18	7.06
	体調不良時ときどき使用	6	2.35
(1) 排痰補助装置（カフアシスト、コンフォートカフなど）の使用		19	7.45
(2) 気管切開の管理		47	18.43
(3) 鼻咽頭エアウェイの管理		5	1.96
(4) 酸素療法		49	19.22
(5) 吸引	口腔吸引	76	29.90
	鼻腔吸引	71	27.84
	気管内吸引	35	13.73
	気管カニューレ内吸引	40	15.69
(6) ネブライザーの管理		46	18.04
(7) 経管栄養	経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、 経胃ろう腸管、腸ろう	88	34.51
	食道ろう	0	0.00
	持続経管注入ポンプ使用	6	2.35
(8) 中心静脈カテーテルの管理 (中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬など)		1	0.39
(9) 自己注射等	皮下注射 (インスリン、成長ホルモン治療など)	11	4.31
	持続皮下注射ポンプ使用	0	0.00
	静脈注射（血友病補充療法など）	1	0.39
(10) 血糖測定（持続血糖測定器による血糖測定を含む）		8	3.14
(11) 継続的な透析（血液透析、腹膜透析を含む）		14	5.49
(12) 導尿	間欠的導尿	16	6.27
	持続的導尿（尿道留置カテーテル）	11	4.31
	尿路ストーマ（膀胱ろう、腎ろう）	2	0.78
(13) 排便管理	消化管ストーマ	7	2.75
	摘便、洗腸	32	12.55
	浣腸	110	43.14
医療的ケア有総数		255	

8 主たる介護者が病気・外出等により医療的ケアを実施できない場合に、代わりに医療的ケアを依頼できる人の有無（医療的ケア有の人のみ）

児においては約4割（38.62%）、者においては約半数（44.71%）と、いずれの区分においても代替介護者が不在の世帯が多くみられた。

	いる		いない		不明		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
児	367	57.61	246	38.62	24	3.77	637
者	130	50.98	114	44.71	11	4.31	255

9 障がい者が普段の生活で日中過ごしている場所（複数回答可）

児・者ともに医療的ケアの有無別で傾向の違いは見られず、医療的ケア有群においては自宅を除くと児では児童発達支援事業所等（59.34%）、者では生活介護事業所（69.41%）が最も高い割合となっていた。

・児が対象となる場所

場所	医療的ケア有		医療的ケア無	
	人数	割合	人数	割合
自宅	509	79.91	299	66.89
児童発達支援事業所等	378	59.34	271	60.63
保育所・認定こども園	31	4.87	25	5.59
幼稚園	6	0.94	4	0.89
小学校・義務教育学校 （前期課程）	113	17.74	66	14.77
中学校・義務教育学校 （後期課程）	24	3.77	21	4.70
高等学校	9	1.41	17	3.80
支援学校	326	51.18	252	56.38
地域活動支援センター	1	0.16	4	0.89
日中一時支援事業所	24	3.77	18	4.03
その他	66	10.36	40	8.95

・者が対象となる場所

場所	医療的ケア有		医療的ケア無	
	人数	割合	人数	割合
自宅	194	76.08	323	63.83
高等学校	0	0.00	1	0.20
支援学校	1	0.39	2	0.40
生活介護事業所	177	69.41	242	47.83
就労の場	27	10.59	110	21.74
地域活動支援センター	6	2.35	18	3.56
日中一時支援事業所	17	6.67	69	13.64
その他	17	6.67	37	7.31

10 介護等の状況について

(1) 介護は無理なくできているか

児・者いずれにおいても医療的ケア有無別で傾向の違いは見られず、児の医療的ケア有群においては6割強(62.64%)が、者の医療的ケア有群においては6割弱(58.82%)が「できている」との回答であった。

(%)

		できている	できていない時がある	できていない	無回答
児	医ケア有	62.64	33.59	3.14	0.63
	医ケア無	68.90	27.96	1.57	1.57
者	医ケア有	58.82	35.69	3.53	1.96
	医ケア無	65.22	28.26	1.78	4.74

(2) 家事・用事は無理なくできているか

児・者いずれにおいても、医療的ケア有群において「できていない時がある」「できていない」と回答した割合が約6割と高くなっていた(児63.42%、者60.79%)。

(%)

		できている	できていない時がある	できていない	無回答
児	医ケア有	35.64	54.47	8.95	0.94
	医ケア無	45.41	49.44	3.80	1.34
者	医ケア有	37.65	52.55	8.24	1.57
	医ケア無	49.80	37.75	7.31	5.14

(3) 介護者は休息ができているか

児・者いずれにおいても、医療的ケア有群において「できていない時がある」「できていない」と回答した割合が約7割を占めていた(児72.53%、者66.27%)。

(%)

		できている	できていない時がある	できていない	無回答
児	医ケア有	27.16	52.75	19.78	0.31
	医ケア無	41.16	46.31	10.96	1.57
者	医ケア有	30.98	50.98	15.29	2.75
	医ケア無	48.22	39.92	7.71	4.15

(4) 障がい者が日中過ごす場所は望む形になっているか

児・者いずれにおいても医療的ケア有無別で傾向の違いは見られず、医療的ケア有群において「なっている」と回答した割合はいずれも5割強となっていた(児 55.57%、者 52.16%)。

(%)

		なっている	なっていない時がある	なっていない	無回答
児	医ケア有	55.57	39.56	4.40	0.47
	医ケア無	63.53	33.78	1.79	0.89
者	医ケア有	52.16	39.61	6.67	1.57
	医ケア無	54.74	36.76	2.96	5.53

(5) 移動等に援助を受けることができているか

児・者いずれにおいても医療的ケア有無別で傾向の違いは見られず、医療的ケア有群において「できていない時がある」「できていない」と回答した割合は約6割であった(児 62.80%、者 56.47%)。

(%)

		できている	できていない時がある	できていない	無回答
児	医ケア有	36.11	34.54	28.26	1.10
	医ケア無	36.24	32.66	29.31	1.79
者	医ケア有	41.57	34.12	22.35	1.96
	医ケア無	46.44	27.08	20.55	5.93

(6) 就労を希望しているができていない方はいるか

児・者いずれにおいても医療的ケア有無別で傾向の違いは見られず、医療的ケア有群において「全員できている」と回答した割合は5割弱であった(児 45.21%、者 46.27%)。

(%)

		全員できている	できていない者がいる	全員できていない	無回答
児	医ケア有	45.21	48.04	2.98	3.77
	医ケア無	54.36	38.48	2.24	4.92
者	医ケア有	46.27	39.22	4.71	9.80
	医ケア無	52.96	27.27	4.74	15.02

(7) 悩みや不安を相談できる相手はいるか

児・者いずれにおいても医療的ケアの有無による違いは見られず、児においては8割弱（有群 77.86%、無群 78.08%）が、者においては6割強（有群 67.84%、無群 64.43%）が「いる」と回答した。

		(%)		
		いる	いない	無回答
児	医ケア有	77.86	20.88	1.26
	医ケア無	78.08	19.91	2.01
者	医ケア有	67.84	28.63	3.53
	医ケア無	64.43	29.64	5.93

(8) 支援等の情報を必要な時に取得できているか

児・者いずれにおいても医療的ケアの有無による違いは見られず、「できている」と「できていない時がある」「できていない」が約半数ずつであった。

		(%)			
		できている	できていない時がある	できていない	無回答
児	医ケア有	42.54	51.18	5.81	0.47
	医ケア無	45.41	48.10	4.92	1.57
者	医ケア有	51.37	41.96	5.10	1.57
	医ケア無	43.48	42.29	8.50	5.73

(9) 家族以外に個性・特性を理解してくれる人はいるか

児・者いずれにおいても医療的ケアの有無による違いは見られず、児においては約8割（有群 82.42%、無群 83.89%）が、者においては約7割（有群 70.20%、無群 69.37%）が「いる」との回答であった。

		(%)		
		いる	いない	無回答
児	医ケア有	82.42	16.48	1.10
	医ケア無	83.89	14.54	1.57
者	医ケア有	70.20	26.27	3.53
	医ケア無	69.37	24.90	5.73

(10) 介護ができなくなった時、支えてくれる人はいるか

児・者いずれにおいても医療的ケアの有無による違いは見られず、「いる」と回答した割合はいずれの群においても3割強であった。

		(%)		
		いる	いない	無回答
児	医ケア有	32.34	65.15	2.51
	医ケア無	30.20	67.11	2.68
者	医ケア有	31.37	63.14	5.49
	医ケア無	38.74	54.15	7.11

(11) 緊急時対応についてわからないことはあるか

児・者いずれにおいても医療的ケアの有無による違いは見られず、いずれの群においても「ある」「少しある」と回答した割合は概ね8割となっていた。

		(%)			
		ある	少しある	ない	無回答
児	医ケア有	42.70	38.93	16.17	2.20
	医ケア無	35.35	46.09	15.21	3.36
者	医ケア有	49.80	36.86	8.63	4.71
	医ケア無	36.96	39.13	17.39	6.52

(12) 相談支援を利用しているか

児については、医療的ケアの有無による違いは見られず、いずれも7割強が「利用している」と回答した（有群77.12%、無群70.11%）。者については、医療的ケア有群において8割弱（78.53%）が「利用している」と回答しており、医療的ケア無群（62.42%）と比較して多くなっていた。

		(%)		
		している	していない	無回答
児	医ケア有	77.12	21.34	1.54
	医ケア無	70.11	25.09	4.80
者	医ケア有	78.53	19.21	2.26
	医ケア無	62.42	28.88	8.70

11 障がい者が利用中のサービス

児者ともに利用可能なサービスにおいては、医療的ケア有の割合が高いのは訪問診療（91.53%）、訪問看護（87.36%）、短期入所（医療）（86.26%）となっていた。児のみのサービスでは児童発達支援（訪問）、者のみのサービスでは生活介護が最も高い割合であった。

	利用中	利用中 うち医ケア有	医ケア有割合
居宅介護	416	270	64.90
重度訪問介護	74	59	79.73
同行援護	65	26	40.00
行動援護	39	13	33.33
重度障害者等包括支援	20	15	75.00
短期入所（福祉）	334	156	46.71
短期入所（医療）	211	182	86.26
生活介護 ^{※1}	366	167	45.63
自立訓練（機能）	108	65	60.19
自立訓練（生活）	43	22	51.16
就労移行支援 ^{※1}	10	2	20.00
就労継続支援 A 型 ^{※1}	15	3	20.00
就労継続支援 B 型 ^{※1}	126	23	18.25
就労定着支援 ^{※1}	5	1	20.00
児童発達支援 ^{※2}	198	126	63.64
児童発達支援（医療） ^{※2}	114	82	71.93
放課後等デイサービス ^{※2}	798	457	57.27
児童発達支援（訪問） ^{※2}	12	10	83.33
保育所等訪問支援 ^{※2}	118	69	58.47
日中一時支援	157	65	41.40
移動支援	388	179	46.13
訪問入浴	194	136	70.10
訪問看護	459	401	87.36
訪問診療	236	216	91.53
訪問リハビリ	606	436	71.95

※1 者のみ

※2 児童福祉法に基づくサービス

11-2 サービスの利用を希望しているにもかかわらず利用できなかった理由

利用できなかったサービスで最も多かったのは短期入所（福祉）で、その理由としては定員超過（64人）、身近にない（26人）、医療的ケアを理由に断られた（26人）の順に多くなっていた。次いで短期入所（医療）の回答率が高く、定員超過（40人）、身近にない（21人）という理由が多かった。移動支援についても件数が多く理由では定員超過が最も多かった。

	医ケアを 理由に 断られた	医ケア対応 人員が確保 できない	定員 超過	身近に ない	費用が 高い	情報が ない	その 他
居宅介護	3	8	5	7	1	8	14
重度訪問介護	5	5	3	4	3	7	4
同行援護	3	6	6	4	2	9	6
行動援護	1	2	4	3	1	10	2
重度障害者等包 括支援	0	0	2	0	2	8	1
短期入所 （福祉）	26	22	64	26	3	17	42
短期入所 （医療）	13	11	40	21	4	14	37
生活介護※ ¹	2	3	7	3	1	3	7
自立訓練 （機能）	0	2	3	4	0	6	1
自立訓練 （生活）	0	1	3	2	0	6	1
就労移行支援 ※ ¹	2	1	1	0	0	4	0
就労継続支援 A型※ ¹	2	1	1	1	0	3	1
就労継続支援 B型※ ¹	2	1	1	0	0	3	2
就労定着支援 ※ ¹	0	0	1	0	0	4	0
児童発達支援 ※ ²	4	2	3	4	1	4	4
児童発達支援 （医療）※ ²	2	1	2	1	0	3	0
放課後等デイ	9	6	31	3	4	5	15

	医ケアを 理由に 断られた	医ケア対応 人員が確保 できない	定員 超過	身近に ない	費用が 高い	情報が ない	その 他
サービス※2							
児童発達支援 (訪問)※2	0	0	2	0	0	6	0
保育所等訪問支 援※2	1	0	3	2	0	7	5
日中一時支援	5	4	16	19	3	14	20
移動支援	6	18	29	13	10	20	46
訪問入浴	1	1	9	6	2	15	13
訪問看護	3	4	7	2	2	7	5
訪問診療	0	0	3	2	1	10	2
訪問リハビリ	2	4	16	8	1	17	8

※1 者のみ

※2 児童福祉法に基づくサービス

12 利用できなかった園や学校（児のみ）

保育所・認定こども園 154 人（13.30％）、特別支援学校 71 人（7.43％）、小学校 66 人（6.90％）の順で割合が高くなっていた。

園・学校	人数	割合	対象者	集計対象
保育所 認定こども園	154	13.30	1,158	0～18 歳
幼稚園	50	4.46	1,120	3～18 歳
小学校 義務教育前期課程	66	6.90	956	6～18 歳
中学校 義務教育後期課程	12	2.34	513	12～18 歳
高等学校	7	2.28	307	15～18 歳
特別支援学校	71	7.43	956	6～18 歳

12-2 利用できなかった理由

医療的ケアがある、医療的ケアに対応可能な人員の不在、医療的ケア対応が不十分といった医療的ケアに関することを理由とする割合が高く、いずれの施設においても同様の傾向であった。

	医ケアがある	医ケア対応の人員不在	定員超過	医ケア対応不十分	身近にない	同伴通園・通学	その他
保育所 認定こども園	56	57	13	17	3	20	50
幼稚園	10	21	0	4	0	10	14
小学校 義務教育 前期課程	11	8	0	9	2	11	25
中学校 義務教育 後期課程	0	0	0	2	0	1	2
高等学校	0	2	0	1	0	0	6
特別支援 学校	3	3	1	4	1	3	16

13 今後充実を希望するサービスや支援策（複数回答可）

全ての群において「短期入所事業所」のニーズが最も高く、次いで「入所施設」となっていた。短期入所、入所施設を除き児の医療的ケア有群においては、「生活介護・日中一時支援事業所」（38.62%）、医療的ケアに対応可能な「通所事業所」（35.03%）の順でニーズが高くなっていた。者の医療的ケア有群においては、「グループホーム」（40.38%）、次いで「生活介護・日中一時支援事業所」（37.18%）のニーズが高くなっていた。

		(%)									
		短期入所	訪看	生活介護・ 日中一時	地域の 医療機関	通所事業所	相談支援 事業所	グループ ホーム	入所施設	職員・スタッフ の知識や技術 の向上	その他
児	医ケア有	75.45	20.66	38.62	29.64	35.03	13.77	32.34	55.99	29.34	14.97
	医ケア無	69.30	11.63	40.93	27.44	6.98	14.42	11.16	53.49	23.26	13.49
者	医ケア有	75.00	17.31	37.18	24.36	26.92	12.82	40.38	68.59	30.13	10.26
	医ケア無	68.94	9.36	30.21	24.26	9.36	10.64	18.72	65.53	16.17	10.21

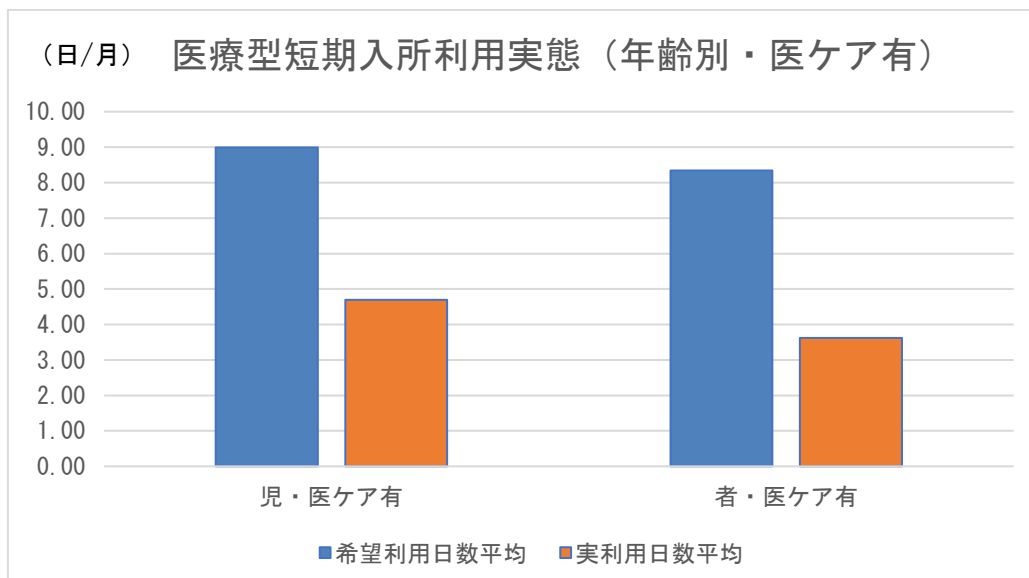
13-2 最も充実を望む内容

いずれの圏域においても、医療的ケア有群では短期入所が最も回答割合が多く、次いで施設となっていた。

		短期入所		訪看		生活介護・ 日中一時		地域の 医療機関		通所事業所		相談支援 事業所		グループホーム		入所施設		職員・スタッフの 知識や技術の 向上		その他		無回答		計	
		医療的ケア	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
大阪市	無		69	25.18	1	0.36	16	5.84	15	5.47	0	0.00	1	0.36	0	0.00	60	21.90	5	1.82	13	4.74	94	34.31	274
	有		62	26.61	8	3.43	15	6.44	14	6.01	8	3.43	3	1.29	10	4.29	38	16.31	10	4.29	18	7.73	47	20.17	233
堺市	無		16	17.39	3	3.26	6	6.52	2	2.17	1	1.09	3	3.26	5	5.43	17	18.48	2	2.17	4	4.35	33	35.87	92
	有		23	24.73	0	0.00	9	9.68	3	3.23	6	6.45	1	1.08	9	9.68	16	17.20	5	5.38	5	5.38	16	17.20	93
豊能	無		34	23.61	1	0.69	13	9.03	7	4.86	0	0.00	2	1.39	4	2.78	36	25.00	4	2.78	6	4.17	37	25.69	144
	有		34	24.82	4	2.92	8	5.84	3	2.19	7	5.11	2	1.46	11	8.03	27	19.71	5	3.65	10	7.30	26	18.98	137
三島	無		26	27.08	1	1.04	9	9.38	2	2.08	1	1.04	1	1.04	2	2.08	24	25.00	0	0.00	8	8.33	22	22.92	96
	有		26	24.53	4	3.77	8	7.55	0	0.00	7	6.60	1	0.94	6	5.66	23	21.70	4	3.77	7	6.60	20	18.87	106
北河内	無		28	21.21	1	0.76	8	6.06	4	3.03	0	0.00	2	1.52	7	5.30	24	18.18	8	6.06	3	2.27	47	35.61	132
	有		39	32.77	3	2.52	10	8.40	1	0.84	5	4.20	1	0.84	8	6.72	22	18.49	3	2.52	4	3.36	23	19.33	119
中河内	無		12	15.58	1	1.30	4	5.19	4	5.19	0	0.00	0	0.00	3	3.90	17	22.08	1	1.30	2	2.60	33	42.86	77
	有		22	34.92	1	1.59	1	1.59	4	6.35	0	0.00	1	1.59	1	1.59	12	19.05	2	3.17	3	4.76	16	25.40	63
南河内	無		7	14.58	0	0.00	6	12.50	1	2.08	0	0.00	0	0.00	1	2.08	10	20.83	1	2.08	5	10.42	17	35.42	48
	有		13	23.21	1	1.79	6	10.71	2	3.57	2	3.57	2	3.57	4	7.14	11	19.64	2	3.57	3	5.36	10	17.86	56
泉州	無		26	25.24	2	1.94	10	9.71	3	2.91	0	0.00	0	0.00	0	0.00	16	15.53	2	1.94	6	5.83	38	36.89	103
	有		22	25.88	2	2.35	2	2.35	5	5.88	4	4.71	0	0.00	3	3.53	20	23.53	5	5.88	7	8.24	15	17.65	85
計																							1,858		

14 医療型短期入所の利用希望日数と実利用日数（希望日数≥1日の者について集計）

児・者ともに希望利用日数を満たすほどの実利用はなく、いずれも実利用日数は希望利用日数の約半分ほどにとどまっていた。



	希望利用日数 平均	実利用日数 平均	設問有効 回答者数	全回答者数	(参考) R5 重心数
児・ 医ケア有	8.99	4.70	134	1,084	1,949
者・ 医ケア有	8.34	3.62	58	761	6,532

ii) 歩ける医療的ケア児者分析

令和6年度における調査の「問6（1）運動発達」の項目において「歩ける」「走れる」と回答した人を「歩ける」、「寝たきり」「座れる」「歩行障がい」と回答した人を「歩けない」と区分し、歩ける医療的ケア児者の特徴や現状について分析を行った。

歩ける医療的ケア児者について

児については、医療的ケア有と回答した人のうち約14%が、者については約28%が歩ける医療的ケア児者であった。

	人数	割合	医療的ケア有全数
児	92	14.44	637
者	71	27.84	255

1-1 今後充実を希望するサービスや支援策（複数回答可） 医療的ケア有群のみ

歩ける医療的ケア児については、短期入所事業所（55.43%）のニーズが最も高く、次いで入所施設（47.83%）、グループホーム（25.00%）、通所事業所（25.00%）のニーズが高くなっていた。歩ける医療的ケア者については、入所施設（54.93%）のニーズが最も高く、次いで短期入所事業所（46.48%）、グループホーム（29.58%）のニーズが高くなっていた。多くのサービスにおいて、歩ける群と比較して歩けない群の方がより高い割合を示していた。

		短期入所		訪看		生活介護・日中一時		地域の医療機関		通所事業所		相談支援事業所		グループホーム		入所施設		職員・スタッフの知識や技術の向上		その他	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	51	55.43	13	14.13	21	22.83	20	21.74	23	25.00	9	9.78	23	25.00	44	47.83	12	13.04	10	10.87
	歩けない	356	65.80	103	19.04	163	30.13	140	25.88	161	29.76	69	12.75	154	28.47	257	47.50	143	26.43	65	12.01
者	歩ける	33	46.48	7	9.86	16	22.54	12	16.90	6	8.45	9	12.68	21	29.58	39	54.93	9	12.68	9	12.68
	歩けない	141	77.05	32	17.49	63	34.43	38	20.77	53	28.96	19	10.38	81	44.26	120	65.57	59	32.24	18	9.84

1-2 今後充実を希望するサービスや支援策（複数回答可） ※単位は全て%

（１）必要な時に利用できる短期入所事業所の充実

児・者いずれにおいても、医療的ケアのある歩けない群が最も高い割合であった。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	55.43	65.80
	医ケア無	47.93	55.88
者	医ケア有	46.48	77.05
	医ケア無	46.69	56.73

（２）早朝、夜間も利用できる訪問看護事業所の充実

児・者いずれにおいても、医療的ケアのある歩けない群が最も高い割合であった。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	14.13	19.04
	医ケア無	4.73	11.40
者	医ケア有	9.86	17.49
	医ケア無	6.97	9.13

（３）日中の生活支援となる生活介護事業所や日中一時支援事業所の充実

児・者いずれにおいても、医療的ケアのある歩けない群は約３割が本項目を選択していた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	22.83	30.13
	医ケア無	32.54	27.21
者	医ケア有	22.54	34.43
	医ケア無	19.16	24.04

(4) 風邪など日常的な疾病に対応してもらえる地域の医療機関の充実

児・者いずれにおいても、医療的ケアのある歩けない群は2割強が本項目を選択していた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	21.74	25.88
	医ケア無	15.98	26.10
者	医ケア有	16.90	20.77
	医ケア無	12.89	20.19

(5) 医療的ケアが必要であっても通うことができる通所事業所の充実

児・者いずれにおいても、医療的ケアのある歩けない群は約3割が本項目を選択していた。特に者については、医療的ケアのある歩ける群と比較して、歩けない群において高い割合を示していた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	25.00	29.76
	医ケア無	4.14	5.51
者	医ケア有	8.45	28.96
	医ケア無	3.14	9.13

(6) 福祉サービスや訪問看護の利用調整をしてくれる相談支援事業所の充実

児・者いずれにおいても、医療的ケアのある歩けない群は1割強が本項目を選択していた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	9.78	12.75
	医ケア無	10.65	11.03
者	医ケア有	12.68	10.38
	医ケア無	5.57	8.65

(7) 医療的ケアが必要であっても入居することが可能なグループホームの充実

児については、医療的ケアのある歩けない群の約3割が本項目を選択していた。者については、医療的ケアのある歩けない群が4割強と顕著に高い割合を示していた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	25.00	28.47
	医ケア無	5.33	8.09
者	医ケア有	29.58	44.26
	医ケア無	10.80	13.94

(8) 身近な地域で入所できる施設の新設

児については、動作区分にかかわらず医療的ケアのある人の約半数が本項目を選択していた。者については、医療的ケアのある歩けない群が6割強と最も高い割合であった。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	47.83	47.50
	医ケア無	43.20	39.34
者	医ケア有	54.93	65.57
	医ケア無	45.64	50.48

(9) 訪問系サービスや通所事業所の職員・スタッフの知識や技術の向上

児・者いずれにおいても、医療的ケアのある歩けない群において約3割が本項目を選択していた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	13.04	26.43
	医ケア無	18.93	15.07
者	医ケア有	12.68	32.24
	医ケア無	8.36	16.35

(10) その他

児・者いずれについても、医療的ケアのある人の約 1 割が本項目を選択していた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	10.87	12.01
	医ケア無	13.02	8.09
者	医ケア有	12.68	9.84
	医ケア無	5.92	7.69

2-1 介護等の状況について 医療的ケア有群のみ

(1) 家庭内での介護（食事・排せつ・入浴・医療的ケア等）は無理なくできているか（必要な時に支援を受けられるか）

児・者いずれにおいても動作群別で傾向の違いは見られず、いずれも約6割が「できている」との回答であった。

		できている		できていない時がある		できていない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	62	67.39	28	30.43	2	2.17	0	0.00
	歩けない	333	61.55	186	34.38	18	3.33	4	0.74
者	歩ける	44	61.97	21	29.58	3	4.23	3	4.23
	歩けない	105	57.38	70	38.25	6	3.28	2	1.09

(2) 家庭内での家事や用事は無理なくできているか（必要な時に支援を受けられるか）

児は、「できている」について歩ける群の割合が高く（47.83%）、者は、動作群別で傾向の違いは見られなかった。

		できている		できていない時がある		できていない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	44	47.83	41	44.57	6	6.52	1	1.09
	歩けない	181	33.46	304	56.19	51	9.43	5	0.92
者	歩ける	28	39.44	35	49.30	6	8.45	2	2.82
	歩けない	68	37.16	98	53.55	15	8.20	2	1.09

(3) 介護している方は定期的な休息や自分の時間の確保ができていますか

児の歩ける群では「できていない時がある」「できていない」の割合は約7割(67.39%)、者の歩ける群では約5割(50.70%)であり、いずれにおいても歩ける群において低い割合であった。

		できている		できていない時がある		できていない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	30	32.61	51	55.43	11	11.96	0	0.00
	歩けない	142	26.25	282	52.13	115	21.26	2	0.37
者	歩ける	30	42.25	30	42.25	6	8.45	5	7.04
	歩けない	49	26.78	99	54.10	33	18.03	2	1.09

(4) 障がい児(者)が日中過ごす場所や過ごし方は、ご本人やご家族が望む形・内容となっているか

児・者いずれにおいても動作群別で傾向の違いは見られず、いずれも約5割が「なっている」との回答であった。

		なっている		なっていない時がある		なっていない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	56	60.87	35	38.04	1	1.09	0	0.00
	歩けない	294	54.34	217	40.11	27	4.99	3	0.55
者	歩ける	33	46.48	32	45.07	4	5.63	2	2.82
	歩けない	100	54.64	68	37.16	13	7.10	2	1.09

(5) 移動や外出、通学の際、必要があれば誰かの援助（支援）を受けることができるか
 児・者いずれにおいても動作群別で傾向の違いは見られず、いずれも約6割が「できていない時がある」「できていない」との回答であった。

		できている		できていない時がある		できていない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	32	34.78	36	39.13	23	25.00	1	1.09
	歩けない	197	36.41	182	33.64	156	28.84	6	1.11
者	歩ける	28	39.44	26	36.62	14	19.72	3	4.23
	歩けない	78	42.62	61	33.33	42	22.95	2	1.09

(6) 介護している方・障がい者ご本人・ご家族の中で、就労を希望しているができていない方はいるか

児・者いずれにおいても動作群別で傾向の違いは見られず、いずれも約5割が「全員できている」との回答であった。

		全員できている		できていない者がいる		全員できていない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	43	46.74	43	46.74	2	2.17	4	4.35
	歩けない	243	44.92	262	48.43	17	3.14	19	3.51
者	歩ける	39	54.93	19	26.76	5	7.04	8	11.27
	歩けない	79	43.17	81	44.26	6	3.28	17	9.29

(7) 介護している方は悩みや不安を気軽に相談できる相手や、情報交換できる相手はいるか

児・者いずれにおいても動作群別で傾向の違いは見られず、児においては約8割が、者においては約7割が「いる」との回答であった。

		いる		いない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	71	77.17	21	22.83	0	0.00
	歩けない	422	78.00	112	20.70	7	1.29
者	歩ける	44	61.97	24	33.80	3	4.23
	歩けない	129	70.49	48	26.23	6	3.28

(8) 支援や手続きなどの情報を必要な時に取得できているか

児は動作群別で傾向の違いは見られず、「できている」が約4割となっていた。者においては「できている」と回答した割合が、歩ける群では約4割(36.62%)、歩けない群では約6割(56.83%)と歩けない群において高くなっていた。

		できている		できていない時がある		できていない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	35	38.04	51	55.43	6	6.52	0	0.00
	歩けない	235	43.44	273	50.46	31	5.73	2	0.37
者	歩ける	26	36.62	37	52.11	5	7.04	3	4.23
	歩けない	104	56.83	70	38.25	8	4.37	1	0.55

(9) ご家族以外に障がい児(者) ご本人の個性や特性を理解してくれている人は身近にいるか

児・者いずれにおいても動作群別で傾向の違いは見られず、児においては約8割が、者においては約7割が「いる」との回答であった。

		いる		いない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	70	76.09	21	22.83	1	1.09
	歩けない	453	83.73	83	15.34	5	0.92
者	歩ける	45	63.38	22	30.99	4	5.63
	歩けない	134	73.22	44	24.04	5	2.73

(10) 介護している方やご家族が障がい児(者) ご本人を介護できなくなったとき、障がい児(者) ご本人を支えてくれる人(施設等を含む)はいるか

児・者いずれにおいても動作群別で傾向の違いは見られず、いずれにおいても6割以上が「いない」との回答であった。

		いる		いない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	26	28.26	65	70.65	1	1.09
	歩けない	178	32.90	349	64.51	14	2.59
者	歩ける	19	26.76	46	64.79	6	8.45
	歩けない	61	33.33	114	62.30	8	4.37

(11) 災害を含む緊急時の対応について、わからないことや不安なことはあるか

児・者いずれにおいても動作群別で傾向の違いは見られず、いずれにおいても８割強が「ある」「少しある」と回答した。

		ある		少しある		ない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	30	32.61	44	47.83	16	17.39	2	2.17
	歩けない	241	44.55	203	37.52	86	15.90	11	2.03
者	歩ける	32	45.07	30	42.25	5	7.04	4	5.63
	歩けない	94	51.37	64	34.97	17	9.29	8	4.37

(12) 相談支援専門員とサービス等利用計画を作成しているか

児・者いずれにおいても動作群別で傾向の違いは見られず、いずれにおいても約７割が「している」と回答した。

		している		していない		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	68	73.91	23	25.00	1	1.09
	歩けない	431	79.67	100	18.48	10	1.85
者	歩ける	45	63.38	21	29.58	5	7.04
	歩けない	144	78.69	37	20.22	2	1.09

2-2 介護等の状況について ※単位は%

(1) 家庭内での介護（食事・排せつ・入浴・医療的ケア等）は無理なくできているか（必要な時に支援を受けられるか）

「できていない時がある」「できていない」と回答した人の割合

児においては、歩ける群において医療的ケアがある場合の「できていない時がある」「できていない」と回答した割合が高くなっていた（32.61%）。また医療的ケアがある人のなかでの動作群別の違いは見られず、いずれも3割強となっていた。者においては、同じ動作群のなかでの医療的ケアの有無による違いや医療的ケアがある場合の動作群による違いは見られず、医療的ケアがある人においては約4割が「できていない時がある」「できていない」と回答した。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	32.61	37.71
	医ケア無	18.93	36.03
者	医ケア有	33.80	41.53
	医ケア無	24.04	37.50

(2) 家庭内での家事や用事は無理なくできているか（必要な時に支援を受けられるか）

「できていない時がある」「できていない」と回答した人の割合

児においては、医療的ケアがある歩ける群（51.09%）と比較して、歩けない群（65.62%）において回答した人の割合が高くなっていた。者においては、動作群別の違いは見られず、医療的ケアがある人は約6割、医療的ケアがない人は4割強の回答率となっていた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	51.09	65.62
	医ケア無	48.52	56.25
者	医ケア有	57.75	61.75
	医ケア無	42.51	49.04

(3) 介護している方は定期的な休息や自分の時間の確保ができていますか

「できていない時がある」「できていない」と回答した人の割合

児については、医療的ケアがある場合には動作レベルによらず約7割が「できていない時がある」「できていない」と回答した。また歩ける群においては、医療的ケアがない場合（49.70%）と比較して回答率が高くなっていた。者については、医療的ケアがある場合には歩ける群で約5割（50.70%）、歩けない群で約7割（72.13%）と歩けない群での回答率が高くなっていた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	67.39	73.38
	医ケア無	49.70	62.13
者	医ケア有	50.70	72.13
	医ケア無	42.86	54.33

(4) 障がい児（者）が日中過ごす場所や過ごし方は、ご本人やご家族が望む形・内容となっているか

「なっていない時がある」「なっていない」と回答した人の割合

児については、医療的ケアがある人のなかでの動作群間に違いは見られず、いずれも約4割の回答率となっていた。者については、医療的ケアがある人のなかでの動作群間に違いは見られず、いずれも約5割の回答率であったが、歩ける群においては、医療的ケアがある人の回答率が5割強（50.70%）、医療的ケアのない人の回答率が4割弱（36.93%）と医療的ケアのある場合の回答率が高くなっていた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	39.13	45.10
	医ケア無	30.18	38.24
者	医ケア有	50.70	44.26
	医ケア無	36.93	43.75

(5) 移動や外出、通学の際、必要があれば誰かの援助（支援）を受けることができるか
「できていない時がある」「できていない」と回答した人の割合

児・者いずれにおいても医療的ケア有無別及び動作群間で違いは見られず、いずれも約5割から6割の回答率となっていた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	64.13	62.48
	医ケア無	60.36	63.24
者	医ケア有	56.34	56.28
	医ケア無	44.95	51.44

(6) 介護している方・障がい者ご本人・ご家族の中で、就労を希望しているができていない方はいるか

「できていない者がいる」「全員できていない」と回答した人の割合

児については、医療的ケアがある人では歩ける群・歩けない群ともに約5割の回答率となっていた。者については、医療的ケアのある場合、歩ける群が3割強（33.80%）、歩けない群が5割弱（47.54%）と歩けない群において回答率が高くなっていた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	48.91	51.57
	医ケア無	39.05	42.28
者	医ケア有	33.80	47.54
	医ケア無	30.31	34.62

(7) 介護している方は悩みや不安を気軽に相談できる相手や、情報交換できる相手はいるか

「いない」と回答した人の割合

児・者いずれにおいても、医療的ケア有無別及び動作群別で違いは見られず、医療的ケアのある児においては歩ける群・歩けない群ともに約2割が、者においては歩ける群・歩けない群ともに約3割が回答していた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	22.83	20.70
	医ケア無	20.12	19.85
者	医ケア有	33.80	26.23
	医ケア無	30.66	28.37

(8) 支援や手続きなどの情報を必要な時に取得できているか

「できていない時がある」「できていない」と回答した人の割合

児については、医療的ケア有無別及び動作群別で違いは見られず、医療的ケアのある歩ける群・歩けない群ともに約6割が「できていない時がある」「できていない」と回答した。者については、医療的ケアのある歩ける群において6割弱(59.15%)、歩けない群において4割強(42.62%)と、歩ける群において回答率が高くなっていた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	61.96	56.19
	医ケア無	53.85	52.57
者	医ケア有	59.15	42.62
	医ケア無	50.17	52.40

(9) ご家族以外に障がい児(者)ご本人の個性や特性を理解してくれている人は身近にいるか

「いない」と回答した人の割合

児については、歩ける群において医療的ケアがある人が約2割(22.83%)、医療的ケアがない人が約1割(12.43%)の回答率となっており、医療的ケアがある場合に回答率が高くなっている。者については、医療的ケア有無別及び動作群間で違いは見られず、医療的ケアがある人において、約3割の回答率となっていた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	22.83	15.34
	医ケア無	12.43	16.18
者	医ケア有	30.99	24.04
	医ケア無	26.48	22.12

(10) 介護している方やご家族が障がい児(者)ご本人を介護できなくなったとき、障がい児(者)ご本人を支えてくれる人(施設等を含む)はいるか

「いない」と回答した人の割合

児・者いずれにおいても医療的ケア有無別及び動作群間で違いは見られず、医療的ケアのある児においては約7割、者においては約6割の回答率であった。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	70.65	64.51
	医ケア無	69.82	66.54
者	医ケア有	64.79	62.30
	医ケア無	55.75	52.88

(11) 災害を含む緊急時の対応について、わからないことや不安なことはあるか

「ある」「少しある」と回答した人の割合

児については、医療的ケアの有無及び動作群間に違いは見られず、医療的ケアがある人の回答率は約8割となっていた。者については、歩ける群において、医療的ケアがある場合は9割弱（87.32%）、医療的ケアがない場合は7割強（73.52%）と医療的ケアがある人の回答率が高くなっていた。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	80.43	82.07
	医ケア無	81.66	81.99
者	医ケア有	87.32	86.34
	医ケア無	73.52	81.25

(12) 相談支援専門員とサービス等利用計画を作成しているか

「していない」と回答した人の割合

児・者いずれにおいても、医療的ケア有無別及び動作群間で違いは見られず、歩ける群の回答率が約3割、歩けない群の回答率が約2割であった。

		歩ける	歩けない
児	医ケア有	25.00	18.48
	医ケア無	26.04	19.49
者	医ケア有	29.58	20.22
	医ケア無	32.40	21.63

3 障がい者の状態、特性 医療的ケア有群のみ

(1) 食事（経管栄養を含む）

児については、歩ける群は「一部介助」が約5割（53.26％）と最も多く、歩けない群は約9割（89.28％）が「全介助」となっていた。者については、歩けない群は約8割（77.60％）が「全介助」となっていたが、歩ける群においては「自立」が最も多く約5割（52.11％）となっていた。

		全介助		一部介助		自立		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	26	28.26	49	53.26	16	17.39	1	1.09
	歩けない	483	89.28	51	9.43	6	1.11	1	0.18
者	歩ける	4	5.63	29	40.85	37	52.11	1	1.41
	歩けない	142	77.60	25	13.66	14	7.65	2	1.09

(2) 排泄（おむつ、浣腸の使用を含む）

児については、いずれの動作群においても「全介助」が最も多くなっていた（歩ける群 48.91％、歩けない群 95.75％）。者については、歩けない群は約8割（83.06％）が「全介助」となっていたが、歩ける群においては「自立」が最も多く約5割（54.93％）となっていた。

		全介助		一部介助		自立		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	45	48.91	36	39.13	11	11.96	0	0.00
	歩けない	518	95.75	14	2.59	1	0.18	8	1.48
者	歩ける	6	8.45	26	36.62	39	54.93	0	0.00
	歩けない	152	83.06	20	10.93	5	2.73	6	3.28

(3) 入浴

児については、いずれの動作群においても「全介助」が最も多くなっていた（歩ける群 54.35%、歩けない群 98.52%）。者については、歩けない群は約9割（89.07%）が「全介助」となっていたが、歩ける群においては「一部介助」が最も多く約4割（43.66%）となっていた。

		全介助		一部介助		自立		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	50	54.35	39	42.39	3	3.26	0	0.00
	歩けない	533	98.52	7	1.29	0	0.00	1	0.18
者	歩ける	12	16.90	31	43.66	27	38.03	1	1.41
	歩けない	163	89.07	17	9.29	2	1.09	1	0.55

(4) 口腔清掃

児については、いずれの動作群においても「全介助」が最も多くなっていた（歩ける群 55.43%、歩けない群 96.49%）。者については、歩けない群は約8割（84.15%）が「全介助」となっていたが、歩ける群においては「自立」が最も多く約4割（45.07%）となっていた。

		全介助		一部介助		自立		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	51	55.43	37	40.22	4	4.35	0	0.00
	歩けない	522	96.49	14	2.59	4	0.74	1	0.18
者	歩ける	13	18.31	25	35.21	32	45.07	1	1.41
	歩けない	154	84.15	21	11.48	7	3.83	1	0.55

(5) 言語理解

児については、歩ける群においては「簡単な言語理解可」が最も多く（44.57%）、歩けない群においては「言語理解不可」が最も多くなっていた（63.59%）。者については、歩ける群においては「日常の言語理解可」が最も多く（46.48%）、歩けない群においては「言語理解不可」が最も多くなっていた（53.01%）。

		言語理解不可		簡単な言語理解可		簡単な色・数の理解可		日常の言語理解可		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	16	17.39	41	44.57	13	14.13	22	23.91	0	0.00
	歩けない	344	63.59	137	25.32	18	3.33	35	6.47	7	1.29
者	歩ける	6	8.45	19	26.76	11	15.49	33	46.48	2	2.82
	歩けない	97	53.01	51	27.87	10	5.46	24	13.11	1	0.55

(6) 意思表出

児については、歩ける群においては「声や身ぶり、サインで表現」が最も多く（40.22%）、歩けない群においては「表情、目の動き」が最も多くなっていた（44.18%）。者については、歩ける群においては「言語での表出」が最も多く（66.20%）、歩けない群においては「表情、目の動き」が最も多くなっていた（34.97%）。

		意思表示が確認できない		表情、目の動き		声や身ぶり、サインで表現（指差し、ジェスチャーなど）		言語での表出		その他		無回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	4	4.35	12	13.04	37	40.22	37	40.22	2	2.17	0	0.00
	歩けない	138	25.51	239	44.18	105	19.41	51	9.43	6	1.11	2	0.37
者	歩ける	2	2.82	2	2.82	12	16.90	47	66.20	5	7.04	3	4.23
	歩けない	54	29.51	64	34.97	26	14.21	34	18.58	3	1.64	2	1.09

(7) その他

児・者いずれにおいても、歩ける群においては「パニック・不安定な行動」が最も多くなっており（児 28.26%、者 32.39%）、歩けない群においては「突発的な発作」が最も多くなっている（児 44.36%、者 39.89%）。

次いで多い特性について、児の歩ける群においては「感覚過敏」(22.83%)、「自傷・他傷」(21.74%) となっており、歩けない群においては「感覚過敏」(18.85%)、「医療的ケア用品の自己・事故抜去」(16.45%) となっている。者については、歩ける群においては「突発的な発作」(21.13%)、「感覚過敏」(18.31%) となっており、歩けない群においては「感覚過敏」(19.67%)、「医療的ケア用品の自己・事故抜去」(15.30%) となっている。

		突発的な発作		医療的ケア用品の自己・事故抜去		異食行動		自傷・他傷		ものを壊す		パニック・不安定な行動		感覚過敏	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児	歩ける	13	14.13	8	8.70	3	3.26	20	21.74	13	14.13	26	28.26	21	22.83
	歩けない	240	44.36	89	16.45	17	3.14	62	11.46	11	2.03	41	7.58	102	18.85
者	歩ける	15	21.13	3	4.23	2	2.82	10	14.08	5	7.04	23	32.39	13	18.31
	歩けない	73	39.89	28	15.30	4	2.19	21	11.48	6	3.28	25	13.66	36	19.67

(8) (1) から (7) について、全て最重度程度該当の人数

児・者いずれにおいても、医療的ケアがある人のうち歩ける群の1割未満（児 4.35%、者 2.82%）、歩けない群の2割強（児 23.29%、者 25.68%）が最重度程度の特徴をもっており、歩けない群において多くなっている。

		人数	割合
児	歩ける	4	4.35
	歩けない	126	23.29
者	歩ける	2	2.82
	歩けない	47	25.68

iii) 過去実施調査との比較

①令和3年度実施調査との比較

介護等の状況に係る各項目について、令和3年度実施の同調査との比較を行った。なお、令和6年度調査における問17(12)「相談支援専門員とサービス等利用計画を作成しているか」については、令和3年度調査において同等項目がないため、後述する平成25年度実施調査との比較を行う。また、比較単位はすべて％（パーセント）表記となる。

(1) 介護は無理なくできているか

児・者いずれにおいても医療的ケア有無によらず同様の傾向であり、いずれも「できている」の割合が約5割から6割であったのが約6割から7割となり、やや増加傾向にあった。

		介護は無理なくできているか							
		できている		できていない時がある		できていない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	54.39	62.64	35.80	33.59	7.75	3.14	2.07	0.63
	医ケア無	60.14	68.90	31.37	27.96	5.47	1.57	3.02	1.57
者	医ケア有	52.10	58.82	36.53	35.69	8.98	3.53	2.40	1.96
	医ケア無	52.05	65.22	35.35	28.26	8.18	1.78	4.42	4.74

(2) 家事・用事は無理なくできているか

児・者いずれにおいても医療的ケア有無にかかわらず経年変化は見られず、「できている」の割合は医療的ケア有群では3割強、医療的ケア無群では4割強での横ばいであった。

		家事・用事は無理なくできているか							
		できている		できていない時がある		できていない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	35.46	35.64	53.53	54.47	9.29	8.95	1.72	0.94
	医ケア無	44.46	45.41	47.05	49.44	5.47	3.80	3.02	1.34
者	医ケア有	36.53	37.65	47.90	52.55	11.98	8.24	3.59	1.57
	医ケア無	41.57	49.80	39.28	37.75	14.24	7.31	4.91	5.14

(3) 介護者は休息ができていますか

児・者いずれにおいても医療的ケア有無にかかわらず経年変化は見られず、「できている」の割合は医療的ケア有群では3割前後、医療的ケア無群では4割前後とは概ね横ばいであった。

		介護者は定期的な休息や自分の時間の確保ができていますか							
		できている		できていない時がある		できていない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	26.68	27.16	52.32	52.75	19.28	19.78	1.72	0.31
	医ケア無	38.27	41.16	48.06	46.31	11.08	10.96	2.59	1.57
者	医ケア有	25.75	30.98	55.09	50.98	16.77	15.29	2.40	2.75
	医ケア無	43.54	48.22	40.92	39.92	11.13	7.71	4.42	4.15

(4) 障がい者が日中過ごす場所は望む形になっているか

「なっている」の回答率は、今回の調査ではいずれの群においても6割前後、令和3年度調査では8割前後となっている。なお、今回の調査においては選択肢が1項目増えているため、経年比較は行わない。

		障がい児者が日中過ごす場所は本人・家族が望むかたちか							
		なっている		なっていない時がある(R3項目なし)		なっていない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	78.14	55.57		39.56	19.10	4.40	2.75	0.47
	医ケア無	83.17	63.53		33.78	11.94	1.79	4.89	0.89
者	医ケア有	74.25	52.16		39.61	21.56	6.67	4.19	1.57
	医ケア無	76.92	54.74		36.76	15.88	2.96	7.20	5.53

(5) 移動等に援助を受けることができているか

児・者いずれにおいても医療的ケア有無にかかわらず経年変化は見られず、いずれの群においても、「できている」の割合は概ね4割前後での横ばいであった。

		移動時に援助が受けられているか							
		できている		できていない時がある		できていない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	31.33	36.11	41.31	34.54	25.13	28.26	2.24	1.10
	医ケア無	40.14	36.24	30.65	32.66	26.04	29.31	3.17	1.79
者	医ケア有	38.32	41.57	40.12	34.12	19.16	22.35	2.40	1.96
	医ケア無	43.04	46.44	32.90	27.08	19.15	20.55	4.91	5.93

(6) 就労を希望しているができていない方はいるか

「全員できている」の回答率は、今回の調査ではいずれの群においても5割前後、令和3年度調査では医療的ケアのある児において約5割、それ以外の群においては6から7割となっている。なお、今回の調査においては選択肢が異なるため、経年比較は行わない。

		就労を希望しているができていない人はいるか							
		全員できている(R3: できていない人はいない)		できていない者がいる(R3: できていない人がいる)		全員できていない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	49.23	45.21	48.02	48.04		2.98	2.75	3.77
	医ケア無	61.15	54.36	34.68	38.48		2.24	4.17	4.92
者	医ケア有	61.08	46.27	31.74	39.22		4.71	7.19	9.80
	医ケア無	72.18	52.96	20.13	27.27		4.74	7.69	15.02

(7) 悩みや不安を相談できる相手はいるか

児・者いずれにおいても医療的ケア有無にかかわらず、「いる」と回答した割合は概ね7割前後で推移しており、横ばいであった。

		相談相手・情報交換相手はいるか					
		いる		いない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	80.38	77.86	16.87	20.88	2.75	1.26
	医ケア無	79.42	78.08	16.69	19.91	3.88	2.01
者	医ケア有	77.25	67.84	19.16	28.63	3.59	3.53
	医ケア無	64.16	64.43	29.62	29.64	6.22	5.93

(8) 支援等の情報を必要な時に取得できているか

「できている」の回答率は、今回の調査ではいずれの群においても5割前後、令和3年度調査では6割強となっている。なお、今回の調査においては選択肢が1項目増えているため、経年比較は行わない。

		情報を必要な時に取得できているか							
		できている		できていない時がある(R3:項目なし)		できていない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	67.47	42.54		51.18	30.29	5.81	2.24	0.47
	医ケア無	65.61	45.41		48.10	30.36	4.92	4.03	1.57
者	医ケア有	63.47	51.37		41.96	33.53	5.10	2.99	1.57
	医ケア無	61.54	43.48		42.29	31.42	8.50	7.04	5.73

(9) 家族以外に個性・特性を理解してくれる人はいるか

児・者いずれにおいても、医療的ケア有無にかかわらず経年変化は見られず、「いる」「いない」の割合は概ね横ばいであった。

		個性・特性の理解者はいるか					
		いる		いない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	82.62	82.42	14.97	16.48	2.41	1.10
	医ケア無	83.88	83.89	12.66	14.54	3.45	1.57
者	医ケア有	77.84	70.20	18.56	26.27	3.59	3.53
	医ケア無	68.25	69.37	25.70	24.90	6.06	5.73

(10) 介護ができなくなった時、支えてくれる人はいるか

児・者いずれにおいても、医療的ケアの有無にかかわらず経年変化は見られず、「いる」の割合は概ね横ばいであった。

		介護できなくなった時に支えてくれる人はいるか					
		いる		いない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	24.27	32.34	72.29	65.15	3.44	2.51
	医ケア無	25.61	30.20	70.36	67.11	4.03	2.68
者	医ケア有	23.95	31.37	73.05	63.14	2.99	5.49
	医ケア無	34.04	38.74	59.41	54.15	6.55	7.11

(11) 緊急時対応についてわからないことはあるか

「ない」の回答率は、今回の調査ではいずれの群においても約1から2割、令和3年度調査では約2割となっている。なお、今回の調査においては選択肢が1項目増えているため、経年比較は行わない。

		災害・緊急時に不明・不安なことはあるか							
		ある		少しある		ない		無回答	
		R3	R6	R3	R6	R3	R6	R3	R6
児	医ケア有	78.14	42.70		38.93	18.76	16.17	3.10	2.20
	医ケア無	71.22	35.35		46.09	24.32	15.21	4.46	3.36
者	医ケア有	80.84	49.80		36.86	14.97	8.63	4.19	4.71
	医ケア無	70.54	36.96		39.13	21.28	17.39	8.18	6.52

②平成 25 年度実施調査との比較

必要なサービス等の複数項目について、平成 25 年度実施の同調査との比較を行った。なお平成 25 年度調査については、大阪府重度障がい者在宅介護支援給付金と同じ条件を満たす重症心身障がい児者の介護者を対象とした大阪府重度障害者介護手当の受給者のデータであるが、本手当は政令 2 市は対象外となっている。このため、両調査において政令市在住者を除外したデータをもとに比較を行う。また本比較においても、単位はすべて％（パーセント）表記となる。

1 主たる介護者の続柄

医療的ケアの有無及び年齢区分による違いは認められなかった。平成 25 年度調査時より、依然として大多数の世帯において母が主となり介護を担っている。

(%)

	医ケア	母		父		きょうだい		祖父母		その他		無回答	
		H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6
児 者	有	96.29	86.89	2.86	11.83	0.00	0.00	0.86	0.26	0.00	0.77	0.00	0.26
	無	95.14	85.61	3.06	13.65	0.00	0.00	0.90	0.00	0.36	0.74	0.54	0.00
	有	85.81	86.44	6.76	10.17	4.73	1.13	0.00	0.00	2.03	2.26	0.68	0.00
	無	85.13	79.19	7.59	14.29	2.53	3.11	0.32	0.31	3.48	2.17	0.95	0.93

2 主たる介護者が病気・外出等により医療的ケアを実施できない場合に、代わりに医療的ケアを依頼できる人の有無

平成 25 年調査と比較して、児・者いずれにおいても代わりに医療的ケアを実施できる人がいないと回答した割合が増加した。

(%)

	いる		いない		不明	
	H25	R6	H25	R6	H25	R6
児	81.43	61.95	15.71	34.70	2.86	3.34
者	83.11	50.85	12.84	44.63	4.05	4.52

3 介護等の状況について

令和6年度調査における本項目のうち、平成25年度調査において該当項目のあるサービス等利用計画の作成状況のみについて比較を行った。

児については、医療的ケア有無にかかわらず平成25年度に「している」と回答した割合は約1割、令和6年度は約7割となり、増加が認められた。者についても、医療的ケア有群において「している」と回答した割合は、平成25年度は約2割（20.27%）、令和6年度は約8割（78.53%）と増加が認められた。

		相談支援専門員とサービス等利用計画を作成しているか					
		している		していない		無回答	
		H25	R6	H25	R6	H25	R6
児	医ケア有	9.58	77.12	60.85	21.34	29.58	1.54
	医ケア無	9.45	70.11	64.17	25.09	26.38	4.80
者	医ケア有	20.27	78.53	35.81	19.21	43.92	2.26
	医ケア無	18.30	62.42	38.49	28.88	43.22	8.70

4 今後充実を希望するサービスや支援策

短期入所及び入所施設については、依然としてニーズが高い水準にある。また児及び者の医療的ケア無群における日中活動の場は一定の充足が認められるものの、者の医療的ケア有群においては変化が見られない。

医療的ケア有群の特徴としては、グループホームのニーズが大きく増加していること、医療的ケア無群において充足が見られる通所事業所のニーズが変わらず推移していることが挙げられる。

(%)

		短期入所		訪看		生活介護・日中一時		地域の医療機関		通所事業所		相談支援事業所		グループホーム		入所施設		職員・スタッフの知識や技術の向上		その他	
		H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6	H25	R6
児	医ケア有	67.59	75.45	20.68	20.66	61.11	38.62	28.09	29.64	39.20	35.03	20.06	13.77	18.83	32.34	43.83	55.99	33.33	29.34	25.62	14.97
	医ケア無	69.61	69.30	15.10	11.63	56.08	40.93	27.25	27.44	31.57	6.98	14.71	14.42	21.37	11.16	47.06	53.49	30.78	23.26	17.06	13.49
者	医ケア有	74.59	75.00	13.11	17.31	31.97	37.18	30.33	24.36	17.21	26.92	6.56	12.82	24.59	40.38	60.66	68.59	19.67	30.13	6.56	10.26
	医ケア無	70.00	68.94	16.54	9.36	42.31	30.21	26.92	24.26	25.00	9.36	14.62	10.64	35.00	18.72	64.62	65.53	29.23	16.17	9.23	10.21